

国際教育研究フォーラム

第1号〈創刊号〉

1991年 秋号
国際教育研究所

目	次
国際教育研究所の発足によせて	1
国際教育研究所の開設にあたって	2
国際教育研究所に期待すること	3
ブラジル事情(Part- I)	4~7
研究員のプロフィール	8

国際教育研究所の発足によせて

加計国際学術交流センター
センター長 加計 勉

21世紀を目前にして、わが国はアメリカをものぐほどの経済大国になりましたが、その一方で、現在、経済、農業、防衛など様々な面で、諸外国と摩擦を生じております。これらの問題を解決するためには、国際的視野に立った新しい日本社会を形成することが必要であり、それには教育が不可欠であります。

これからは世界中の国々と協力して国際社会を形成するために、それぞれの国の教育および文化を学び、理解し、これに基づく相互の意志の疎通を図ることが益々重要になって参ります。そのために、以前より岡山理科大学、吉備国際大学を始め、多くの関連学園で諸外国の中等、高等教育機関と姉妹校の提携を結び、人的、学術的交流を促進し、教育による国際交流に力を注いで参りました。この度、この国際教育に積極的に取り組む研究機関として、「国際教育研究所」を加計国際学術交流センター内

に設立いたしました。

本研究所は今まで姉妹校を通して築いて参りましたアメリカ、ブラジル、中国、イギリスだけでなく、それ以外の様々な国の教育・研究機関および研究者と教育に関する相互交流を行い、21世紀の国際社会における教育のあり方を追求し、りっぱな国際教育研究の基地になることを目指しております。

最後になりましたが、大正の古き頃より、国際感覚溢れた倉敷に本研究所を設立することができましたことは、一重にみなさまのご支援、ご協力の賜であり、心から感謝する次第であります。しかし、本研究所はまだ途についたばかりであり、これからもみなさまのお力をお借りすることが多々あると思います。本研究所の成長を心温かく見守っていただきたくお願いいたしております。